子供向けイベント **古墳で探検** で学んだ

「甲斐銚子塚古墳」・「丸山塚古墳」・「かんかん塚古墳」

県立考古博物館の西隣に位置する曽根丘陵は甲府盆地南西の丘陵地域で、旧石器時代からの数々の遺跡が分布し、都市公園になっています。埋蔵文化財センターではゴールデンウイークに、子供向けイベント「古墳で探検」開催し、これらの古墳についてわかりやすくご説明しました。「古墳で探検」ではまず初めに、子供たちに古代衣装（貫頭衣・ｶﾝﾄｳｲ）に着替えてもらい、３か所の古墳でクイズゲームを行ってもらって、やまなしの素晴らしい埋蔵文化財である古墳に親しんでもらいました。子供たちが地域の歴史に興味を持つ切っ掛けとなれば幸いです。

① 国指定史跡　「甲斐銚子塚古墳」

国史跡に指定されている「甲斐銚子塚古墳」は、全長 169m、高さ 15m の東日本最大級の前方後円墳であり、４世紀に造られました。前方後円墳というと大阪府堺市の仁徳天皇陵が有名ですが、山梨にもこんなに大きなものがあります。公園として整備され、美しく保たれていますので、ぜひ一度、見に来てください。きっと驚かれると思います。
前方後円墳は、地域首長と畿内（ヤマト）の政治中枢との関係を示すシンボルです。各地の首長同士を序列づけ、その政治的身分を古墳の形式と規模によって表現するという原理があります。

埴輪は、古墳の上又は周囲に並べ置かれた土製品です。その役割は、古墳の装飾や祭祀などに関連していると言われています。埴輪というと、映画に出てきた大魔神のような武装男子埴輪や馬形埴輪のような人物・家・動物などをかたどった形象埴輪が思い浮かびますが、甲斐銚子塚古墳から出土した埴輪は、写真のような円筒形をしている円筒埴輪や朝顔形埴輪、壺型埴輪でした。

石室から発見された主な副葬品は、三角縁神獣車馬鏡など青銅鏡が５面、鉄斧、勾玉（ﾏｶﾞﾀﾏ）、貝釧（ｶｲｸｼﾛ・貝殻を加工して作った腕輪）、石釧（ｲｼｸｼﾛ）、石製杵（ｲｼｾｷﾈ）、車輪石（ｼｬﾘﾝｾｷ・色のついた石英を加工して作った腕輪）などです。鏡の中には、岡山県や群馬県、福岡県の古墳から出土した鏡と、同じ鋳形（ｲｶﾞﾀ）で作られたものがありました。また、貝釧に使われた貝殻は遠く南国産のものでした。

古墳で探検 のクイズゲーム「古墳の石室のヒミツをあばこう！」

段ボールで石室を作り、レプリカの副葬品である鏡や勾玉、貝釧、石釧などを入れておきました。
子供たちに何が入っているか覚えてもらい、フタを 30 秒程閉め、少しだけ抜いておいて、間違い探しをしてもらいました。子供たちの記憶力は抜群であり、担当者を驚かせるほどでした。

※ 埴輪

銅鏡 ※

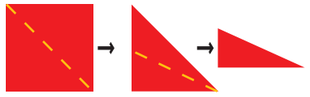
② 国指定史跡 「丸山塚古墳」

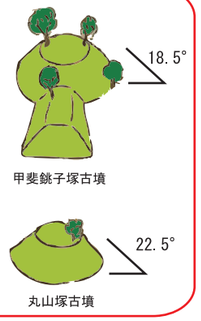
「丸山塚古墳」は、直径72m、高さ10mの県内最大の円墳であり、国史跡に指定されています。甲斐銚子塚古墳より後の時代（５世紀初旬頃）に造られ、甲斐銚子塚古墳に続く首長クラスの墓と考えられています。
丸山塚古墳は甲斐銚子塚古墳より、規模は小さいですが、斜面の角度は、甲斐銚子塚古墳が 18.5°に対し、丸山塚古墳は 24.5°と丸山塚古墳の斜面の方が急こう配となっています。

斜面の角度を急にすると、崩れやすくなってしまいますが、迫力が増します。甲斐銚子塚古墳の時代（４世紀）よりも、丸山塚古墳の時代（５世紀初旬頃）の方が、古墳の角度を、より急こう配にできる土木技術に進歩したことがわかります。

古墳で探検 のクイズゲーム「古墳の角度のヒミツにせまろう！」

折り紙を使って、子供たちに古墳の斜面の角度のおおよそを測ってもらいました。折り紙は、その角がそのままだと 90°、一回折ると 45°、二回折ると 22.5°になります。何回折った時に、古墳の斜面と同じ角度になるか、子供たちに調べてもらいました。初めは戸惑うことが多かったですが、最後にはちゃんと丸山塚古墳の方が急こう配であると解ってくれました。





③「かんかん塚古墳」

かんかん塚古墳は、５世紀後半に造られた直径 21m×26m の楕円形をした古墳です。出土した副葬品には、よろい・冑（ｶﾌﾞﾄ）などの武具の他に、馬具類が含まれていました。鐙（ｱﾌﾞﾐ・馬に乗る時の足をかけるもの）、轡（ｸﾂﾜ・馬の口に噛ませ、馬を制御するためのもの）、三環鈴（ｻﾝｶﾝﾚｲ・装飾品として馬の尻や胸につけた鈴）などです。

乗馬の風習は、日本には５世紀頃に伝わりました。かんかん塚古墳から出土した馬具は、馬具の中でも初期の形のものであり、甲府盆地には乗馬の風習がいち早く伝わったことがわかります。

かんかん塚出土の鐙（ｱﾌﾞﾐ）は、足をかける部分が輪状の輪鐙（ﾜｱﾌﾞﾐ）であり、木の長い角棒を丸くたわめて形を作ってから鉄の板で覆ったつくりです。

古墳で探検 のクイズゲーム「古代の馬のヒミツを追おう！」

お手製で冑（ｶﾌﾞﾄ）やよろい、様々な馬具を作り、担当職員が馬にまたがる古代人の騎兵に扮しました。かんかん塚から出土した馬具が、馬のどこに使われていたかを当てるゲームです。子供たちは馬や騎兵の完成度の高さに驚いているようで、とても喜んでくれました。

日本遺産

星降る中部高地の縄文世界

～数千年をさかのぼる黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅～

殿林遺跡出土深鉢型土器 ※

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石の鉱山があります。鉱山の森に足を踏み入れると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ耀（かがや）く黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきました。

日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として、日本各地にもたらされました。
今から数千年前、山梨・長野両県にまたがる中部高地には、黒曜石によってもたらされた豊かな芸術性をもった縄文人達の繁栄があり、出土されたユニークな縄文土器や土偶は高く評価されています。

今年５月 24 日、文化庁は、山梨、長野両県にまたがる中部高地の縄文土器や土偶はその芸術性が高く、日本最古の黒曜石産地を取り上げ、山麓の縄文集落と結び付け、魅力的なストーリーにしているとして、「星降る中部高地の縄文世界」を日本遺産に認定しました。構成文化財は山梨が 22、長野が 45 件の計 67 件。殿林遺跡（甲州市塩山）から出土した深鉢形土器などは、均整のとれた形と優美に洗練された文様により世界的に高い評価をうけ、大英博物館などでも紹介され、日本古来の原始美術として高い評価を受けています。

現在、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のプロモーションについて、文化庁が派遣するアドバイザーの指導・助言のもと、官民で構成された協議会によって検討がなされています。詳細については次号以降の「埋文やまなし」等でお知らせします。

※

※

※

※

※ photo by Ogawa